

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:16 事業(施設)名:男女共同参画推進センター

アドバイザー	評価区分	評価内容
小口アドバイザー	「要改善」	<p>私の方からは「一部廃止」という評価をさせていただいた。一部廃止というのは、「ぴゅあ峡南」を廃止という評価。ぴゅあ峡南については、南部町という立地のなかで本当に様々な事業を考えられ、利用者増に努力されているが、残念ながら事業以外の稼働率は極めて低い状況が続いている。</p> <p>それと事業や利用者の住所を見ると、地元の南部町が圧倒的に多く、これに身延町を加えて90%近くという状況になっており、峡南全体の男女共同参画の拠点としての役割を十分に果たしているとは言えない。</p> <p>こうした低い稼働状況のなかで、今後、大規模な改修もかかってくると思われ、ぴゅあ峡南については「廃止」という評価をさせていただいた。</p> <p>ぴゅあ峡南の施設は譲渡という形になると思われるが、男女共同参画に必要な事業があるので、事業すべてではなく、必要なものに絞り込み、峡南地域の、例えば県の施設を利用する等して、全体の地域のバランスを考えて事業を企画して開催していただく。</p> <p>これが県民の満足度向上につながると思う。</p> <p>施設自体は甲府のぴゅあ総合を視察させていただいたが、中の施設で例えば女性団体連絡室とか、役員室などは有効利用という意味では、少し見直すべき点もあると思う。喫茶コーナーや図書コーナーについては詳しい話を聞いていないが、これらについても少し見直す必要があるのではないかと感じた。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>今回、施設の評価ということで見させていただいた。少しそこからは外れるかもしれないが、資料でいただいた「男女共同参画推進条例」の前文や当事業の目的にも明記されている「男女共同参画社会の推進」のためにこの事業があると説明をいただいている。</p> <p>これは県民一人一人に男女共同参画社会という意識を醸成して、男女共同参画社会を実現することが目的と説明いただいたが、このような意識を醸成することのために、これだけ施設を造る必要があったのだろうかという疑問を感じた。</p> <p>指定管理でこの施設を維持・運営することについて予算が使われており、本来的な男女共同参画社会をつくるという本来の目</p>

諸平アドバイザー	「要改善」	<p>的から離れてしまっているのではないかという疑問を感じた。これは今言っても仕方ないので、今後の参考としていただきたい。</p> <p>評価については「一部譲渡」とさせていただいた。ぴゅあ峡南については南部町に譲渡するのが望ましいのではないかとと思われる。それから、ぴゅあ富士については、都留市の施設と一体運用されている部分、つまり、通路で仕切られているという説明をいただいたが、それならば一体利用を考えた方が合理的ではないかと思う。</p> <p>甲府市にあるぴゅあ総合については、経費の処理の中に、指定管理団体の本部組織と区分けが不明瞭な部分があると思われる。本部組織の所在地がぴゅあ総合のなかにあることで、組織図自体が混同されているのか、実際に経費が混同されているのかははっきりしないが、その辺の区分けをしていただきたい。</p> <p>使用料について、利用者が本来の設置目的とかけ離れた利用者が増えているのではないか。であれば使用料を利用者の内容によって変えることは可能かどうか検討していただきたい。</p> <p>「要改善」とさせていただいた。</p> <p>それぞれの施設の稼働率で活動量を計っているようだったので、稼働率アップのために、趣味の講座など、似通った講座が開かれることになってしまったと思った。</p> <p>男女共同参画推進のための拠点が必要なのは十分理解できること。この先、施設の統合等を見据えて、魅力的な講座であるとか、出張相談など、さらなる男女共同参画の啓発活動に予算を振り分けるような仕組みにしていきたい。</p>
----------	-------	---

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:17 事業(施設)名:富士川観光センター

アドバイザー	評価区分	評価内容
五味アドバイザー	「廃止」	<p>旧富士川地場産業振興センターから引き継いだ施設を残すことを前提とした事業であると感じた。1郷館を情報発信館、2～3郷館をものづくり体験館、4～6郷館をふれあい交流館としているが、すべてその活用が中途半端で情報発信・道の駅ともに何を情報発信し、何を伝えたいのか不明である。また、富士川クラフトパークのサービスセンターとしての機能が与えられているという説明であったが、富士川クラフトパークのサービスセンターであるならば、富士川クラフトパークが行う形が望ましい。</p>
諸平アドバイザー	「廃止」	<p>実際に富士川クラフトパークの中にあり、同じ指定管理者が管理運営を行っている。富士川観光センターは来場者からみれば富士川クラフトパークの一部であり、富士川クラフトパークと一体で効率的な運営を行ってほしい。具体的には、富士川観光センターとしての必要な情報発信や道の駅の機能は富士川クラフトパークの施設で十分行えると感じた。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>富士川クラフトパークと一体化を図ってほしい。意味合いで行くと二人と一緒にある。廃止となるか言い方が難しいところである。富士川クラフトパークと一体として運営してほしい、残すのは富士川クラフトパークという意味合いである。富士川観光センターは利用者から見ても再三話に出ているように、富士川クラフトパークと一体の施設であると考えられる。富士川クラフトパークと統合してほしいという意味で、「要改善」として評価した。当然、富士川観光センターと富士川クラフトパークが一体となることで、施設の運営も一本化され、利用者にとっても分かりやすいPRができ、県としての管理も効率化が期待できる。全体としての経費削減になる。利用者にとっても分かりやすい施設になる。一体となった上で、現在施設の機能が峡南地域の情報発信と地域工芸のPRということになっているが、これは富士川クラフトパーク全体の中でどの様な情報発信をしていくのか、地域の工芸品も中途半端になっているので、これをどのようにPRするのかを全面的に考え直してほしい。</p>

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:18 事業(施設)名:国際交流センター

アドバイザー	評価区分	評価内容
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>宿泊施設について、主に水回り部分の老朽化が激しく、今後、費用が掛かる見込みと思われる。</p> <p>宿泊施設については、民間のアパートとかを借りる等して対応することで、経費の削減や見直しを行ってほしい。</p> <p>国際交流センターは、平成18年から、山梨県国際交流協会が指定管理を行っているが、現状では、ほかに管理できる団体がない状況と思われる。</p> <p>漫然と管理をする状態ではなく、取捨選択を考えて行ってほしい。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>国際交流センターの機能は、海外研修生の受入施設と、国際化事業のための施設という2つ機能を持っているという説明があった。</p> <p>研修生のための宿泊施設としては稼働率が低下していること、施設そのものが相当に老朽化が進んでおり、今後多額の修繕費が予想されることから、今後に向けて見直しが必要という観点から、要改善と評価した。</p> <p>宿泊施設の本来の目的としての利用は、海外研修生の受入れだが、これは先日の話では、半分くらいで、それ以外の方の宿泊に使われているということだった。</p> <p>そのような中、施設は、水回り等の老朽化が相当厳しく、とても満足とはいえない水準にあり、この改修には相当額が必要になると考えられる。そこで、この施設を改修するのではなく、宿泊に必要な数を県が斡旋することや、借り上げることが、将来のコストの減少に繋がるものと考えられる。</p> <p>宿泊部分がなくなると、かなり大きな建物で余裕が出てくるが、これを国際化事業のみに使うという考え方ではなく、国際化事業はあくまでもソフト事業だと思うので、現在の規模、現在の独自の施設にこだわる必要はないものと考えられる。</p> <p>今後の宿泊施設のあり方を見直すとともに、国際化事業のための施設をどうするかということも、併せて検討してもらいたい。</p>

五味アドバイザー	「要改善」	<p>今後、国際交流の重要性はますます高まっていくと思う。しかしながら、施設のなかで、3階、4階にある寮室に関しては、県内の留学生のうち、当施設を利用しているのは現在7名であり、他の留学生は、大学の寮や民間の賃貸物件を利用しているものだと思う。</p> <p>留学生の寮室の利用に関しては、担当課で選考を行っている聞いたが、部屋数を上回る応募があるのかどうか、疑問に感じている。</p> <p>今後の老朽化に伴う修繕費、維持費を考えると、寮室に関しては、継続するか否かを検討する必要があると思う。</p> <p>県への派遣職員や技術研修員などについても、差額負担などの対応によって、民間の賃貸物件の利用を検討してはいいかがか。</p>
----------	-------	---

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号:19 事業(施設)名:富士川クラフトパーク

補足説明

説明者職・氏名	説明内容
<p>総括課長補佐 上野良知</p>	<p>7月26日に行われた現地調査において、五味アドバイザーから「指定管理委託料と県の施設修繕費で、1年あたり1億7千万円も支出しており、今後もこれが続くのであれば、維持管理の費用がかかりすぎではないか」との意見が出されたことについて、事前に渡した補足説明資料に基づき、補足説明する。</p> <p>H22～H26にかけては、公園防災整備事業ということで、通常の公園の補修とは別に公園の防災拠点整備を行い、自衛隊や救援部隊の活動拠点として対応するため、橋梁耐震化・園路拡幅、駐車場を使いやすくする、大花壇を仮設住宅や野営を行えるよう平坦化、バリアフリー化等を行っていたため、施設改修費が多くなっている。これは、現地調査でも説明している。</p> <p>施設修繕・改修事業費については、特別な年を除けば毎年度おおそ4千万円の費用となっている。5千万円を超す費用がかかった年度の内容としては、平成20年度については、鳥獣害防止柵を約1kmにわたって設置しなければならなかったことや、砦遊具広場を大規模に改修し、遊具の設置や植栽の整備を行ったためである。平成25年度及び平成26年度については、円筒館跡地のエントランス棟の設計及び施工のため、また、平成27年度については、防災井戸の掘削費用のため通常より余計に費用がかかっている状態となっている。</p> <p>今後、県が出資する指定管理委託料と施設修繕費だが、施設修繕費については、平成26年度に策定した「山梨県都市公園長寿命化計画」に基づいた老朽化対策が中心となり、長寿命化計画への投資額は、県内の他の都市公園と調整し、県の管理する都市公園全体で年度毎の平準化を図る計画としており、毎年度の支出額を抑えながら、効果的効率的な対応を図っていきたいと考えている。</p> <p>指定管理委託料及び施設更新・改修費についての全国調査結果をみると、21道府県・政令市32公園の指定管理委託料及び施設更新・改修費の平均は1億7千4百万円余となっており、富士川クラフトパークは1億6千7百万円余であり、全国平均をやや下回っている状況である。公園ごとそれぞれに条件が違うため、費用にばらつきがあるが、他県でも、開園年次が古いものは、指定管理委託料及び施設更新・改修費が多くなっている傾向にあり、地域の拠点となるような大規模な広域公園を維持管理する為には、一定の維持管理費が必要になっているのではないかと考えている。</p> <p>なお、当公園の開園が平成元年ということで、開園から30年近くが経過し、今後補修や取り替えの必要なものが増えていくが、「山梨県都市公園長寿命化計画」に基づき、効率的効果的に老朽化している施設の改修を実施していきたいと考えている。</p> <p>小口アドバイザーから「公園建設当時に公園利用者数をどれくらい見込んでいたのか」と質問があったが、当時の想定は25万人である。</p> <p>同じく、小口アドバイザーから「日本庭園や迷路など、あまり利用されていない印象を受けるが、施設毎の利用状況は把握しているのか」と質問があったが、無料施設の施設毎の利用者数は把握していない。日本庭園や迷路などは遊具広場やイベント広場と比べてやや少ないと思われるが、公園は</p>

	<p>一日単位や半日単位で利用されると思われるため、遊具広場やイベント広場利用者の何割かは日本庭園や迷路などを利用していると考えている。</p>
--	--

再質疑			
アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー 五味アドバイザー 諸平アドバイザー	特になし		

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:19 事業(施設)名:富士川クラフトパーク

アドバイザー	評価区分	評価内容
小口アドバイザー	「要改善」	<p>他県の同規模の公園との比較の話で、当然、公園の中身や利用者数によって変わってくる。指定管理費、修繕費、大規模改修費、これも4千万円とのことだが、決して少なくない額である。これら全体を合わせると、県の施設として相当多額である。将来にわたり指定管理費や大規模改修費がかかることを考えると、この施設維持の考え方、やり方を改善するといった意味で、「要改善」と評価した。</p> <p>具体的には、指定管理料の外部委託費が非常に大きな金額となっている。外部委託費の内訳を見ると、大半が植栽の維持管理費となっている。この金額をみると、これだけで、十分指定管理の対象とする規模だと思われ、場合によっては毎年入札ということで、競争原理を働かせて、減らしていかなければいけない多額な金額ではないかと思う。</p> <p>また、植栽のあり方自体が、素人だが、非常に維持管理費がかかる植栽の形になっているように思う。同じような形では同じように経費がかかるので、もう少し維持管理費がかからないような植栽へ段階的に移行していく事が必要だと思われるし、こういう提案を入札、あるいは指定管理から提案を受けるなかで行っていくという考え方もあるのではないかと思う。</p> <p>これから発生する大規模改修の対象となる遊具や施設があるが、この更新について、古くなったから安全面で更新するという考え方ではなく、利用度が高いものだけ更新して、低いものは撤去し、跡地は維持費のかからない芝生等として、とにかく全体として経費を減らしていくことを考えて、見直しを行って欲しい。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>予算が潤沢にあるのであれば、現状のような施設は素晴らしいと感じた。しかし、現実を考えると、どのぐらいの広さが妥当なのか、多くの利用者が利用する範囲はどの辺りまでなのかという検討が必要ではないか。切り絵の森美術館の活動も素晴らしいものだと思ったが、美術館の外観的効果のために公園が存在しているかの説明を受けたときには唖然とした。</p> <p>先程いただいた追加資料の中で当公園の維持費が全国の同程度の公園の維持費の平均と、ほぼ同程度と説明を受けたが、全国の財政力指数をみると、山梨県の順位は31位であり、数値は0.36である。この数値は1が収入と支出が均衡であることを示す。公園の維持費が平均値でよいのかという疑問をもった。</p> <p>また、山梨県の総面積は全国の32位であるが、可住面積は21.3%しかなく、利用できる平地が少ないということとなるが、</p>

諸平アドバイザー	「要改善」	<p>見方を変えると、非常に豊かな緑に恵まれているということとなる。平成27年度の資料では、修繕費の中に、鳥獣防護柵の費用として5百万円を超えるものが3回あった。高額な費用をかけて防護柵を設け続けなければならないとなると、今現在シカの被害はよく耳にするが、そういった対策に予算を使う方が県民のためになるのではないかと思うので、検討して欲しい。</p> <p>植栽管理に外部委託の大部分が費やされているが、この部分を切り離して、単独の指定管理を導入するのも良いのではないかと。管理費の見直しが必要である。</p> <p>富士川観光センターの評価でも話したが、一体で管理していくために、富士川切り絵の森美術館を一箇所に統合し、空いた施設を効率よく使うことで、対応して欲しい。</p> <p>クラフトパーク内の施設にも利用率の低い施設があるので、規模の適正化といいますが、少し規模を縮小するなどの見直しをして欲しい。例えば、施設の利用しやすさということで、もっと使っている(利用率の高い)ところに、経費をかけるような施策を考えて欲しい。</p>
----------	-------	---

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 20 事業(施設)名: 青少年センター

アドバイザー	評価区分	評価内容
五味アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が非常に老朽化しているという感じを受けて、これにどのように対応していくかという問題があると思う。非常に広大化した施設の集約を図る必要がある。 ・多岐にわたった活動の中で、当施設が本当にしなければならない活動は何であるのかを検討していただきたい。リバース和戸館までを含めて、施設があるから、これを利用した活動をしなければならないということが先に立ち、現在のようややとりとめのない活動内容になってきているのではないかと感じた。 ・スポーツを推奨するような施設にするのか、居場所づくりに通じる若者をサポートするための施策を実施するための施設にするのか、その辺の検討を進めていただきたい。
諸平アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> ・築46年が経過している部分と、リバース和戸のように比較的新しい施設とが混在していて、広大な施設だと思う。 ・これだけの会議室と近隣の施設との兼ね合いや県の施設全体で見ても、どれだけの会議室や視聴覚室、和室、音楽室が必要なのか、それによっては必要施設の選択と集中が、この施設だけに限らないが、必要ではないかと思った。 ・児童生徒の見守りや児童生徒に対する諸問題への新しい取り組みなども、施設の方から伺ったが、それについても、今後も必要であるのか、どのように取り組んでいったら良いのかも引き続き考えていただきたいと思い、要改善とした。
小口アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の施設を順次統合してきたので、やむを得ないが、そのために、運営が非効率になっていて、機械のランニングコストもかなりかかっている。それぞれが老朽化することによって、将来相当大きな修繕費がかかってくると予想される。将来のコスト増を避けるために、再三、話にあるとおり、適正な規模への縮小・集約を検討するという意味で要改善と評価をした。 ・現在、3つの施設が、何となくというか、順次増えてきた経緯があるので、一部の施設は当然重複しているし、受付も3カ所あるということで、運営面で非効率というだけではなく、利用者にとってもわかりづらい施設になっているのではないかと思う。 ・施設の機械系統は別々になっているので、これが多額な水道光熱費の一因にもなり、将来、それぞれのメンテナンスがかなり多額になると考えられる。そこで、5年くらいの中期計画を立てて、各施設の稼働率や重複状況、維持コスト、それから本来やる

		<p>べき事業を考え直すことも含めて、これから続けて運営していくものと廃止するものを区分することによって、段階的に縮小していく必要があると考える。</p> <p>・リバース和戸については、隣接しているということで県の管理になったが、見た感じは独立的になっているので、できれば民間への譲渡ということも一つの考え方としてあるのではないかと思うので、そういったことから総合的に検討をしていただきたい。</p>
--	--	---

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 21 事業(施設)名: ゆずりはら青少年自然の里

アドバイザー	評価区分	評価内容
諸平アドバイザー	「譲渡」	<p>上野原市への譲渡とする。</p> <p>上野原市が指定管理をしていること、県外からの利用客がとても多いこと、県立の宿泊施設と市立の地域交流館(体験活動施設)を一体としてもっと活用できるのではないかと思う。また、上野原市の観光資源の1つとして十分活用できる。</p>
小口アドバイザー	「譲渡」	<p>上野原市への譲渡とする。</p> <p>県の施設であるキャンプ場と上野原市の施設である地域交流館は同じ敷地にあり、利用者から見ても一体化した施設になっている。現状、指定管理者も上野原市であり、事実上、一体運営がされているという意味では、自然の流れではないかと思う。現在は県の施設ということで、いかに県内利用者の増加に向けたPRや、稼働率を上げていくという努力をしていると思うが、実際に利用者の状況を見ると、神奈川県や東京都の住民の利用割合が増えているのが実態。これはやむを得ないことで、あの施設自体が山梨県民よりも東京や神奈川県の人たちに魅力のある施設だということが明らかであるので、むしろそういう観点に立って、それを活用するという考え方に変えた方がいいのではないかと思う。その意味で上野原市に維持管理を移管し、上野原市全体の県外客誘引の有力な施設として位置付け、地域活性化に繋げていくことがふさわしい施設ではないかと思う。</p>
五味アドバイザー	「譲渡」	<p>上野原市への譲渡とする。</p> <p>地域交流館との一体の利用が効率的だと考える。季節的には非常に利用率も高く、現地視察したところ、地域の雇用も生み出していると感じた。この地域は東京都西部及び神奈川県にも近く、現在でも県外からの利用客が過半数となっている。県が運営することで、様々な制約があると思うが、この制約を取り外して、もっと自由な発想によって運営する方が地域の振興にも役に立つのではないかと考える。</p>